11 月の植物

ムクロジ（ムクロジ科）

学名：*Sapindus mukorossi*

我が家のお墓のすぐ後ろには毎年，独特の実をつけるムクロジがある。その実が好きで，晩秋はお墓に行くたびに，ついつい拾ってポケットに入れてしまう。その実は最初は明るい茶色だが，時間が経つと濃い茶色へと変わる。振るとカラカラと音がするので，硬い果皮を剥くと中から直径１ｃｍほどの真っ黒で硬い種子が出てくる。ムクロジの実は，容貌だけでなく，ユニークな性質を持つ。海外では「ソープナッツ」などと呼ばれ，果皮にはサポニンが含まれており，殺菌・抗菌作用を有し、水に溶けると発泡作用があるため，明治の頃までは石鹸代わりにしばしば用いられたという。

ムクロジは東アジアの温帯域に広く分布する落葉高木の広葉樹で，秋に黄葉する。社寺の庭などに庭園木としてよく植えられている樹木だが，その理由を探ると，黒く硬い種子が数珠の材料になることが理由のようだ。また，この種子は羽根突きの羽根に重りとして付いている黒い玉としても利用される。

漢字では「無患子」と書く。直訳すると“患（わずら）わない子”。すなわち“病気にかからない子”の意味を持つ。ムクロジの種子を用いて羽根突きをする習わしは，子どもの無病息災を願うことにもつながるという訳だ。

調べれば面白い逸話も出てきた。お釈迦様曰く「もし、煩悩(ぼんのう)・業苦(ごうく)を滅し去ろうと欲するなら、無患子の実、百八個を貫き通して輪を作り、それを常に持って一心に佛法(ぶつほう)僧(そう)三宝(さんぼう)の名を唱えて…」というものだ。私も折角なので，百八個の種子を連ねて数珠を作ろうと思う。

（文・写真　井上　英史）